



今年の教団標語として掲げられたみことばを味わい、神の語りかけに耳を傾けましょう。

この手紙は、パウロが紀元64年頃にローマの獄中から後輩の牧会者であるテモテに書き送ったものです。パウロにとっては遺言と言うべき最後の手紙であり、手紙全体を通して目の前に迫った殉教を意識する言葉が綴られています。その中にテモテに対するパウロの愛と励ましの言葉が満ちています。

“ですから、私の子よ、キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。” 2:1

① 「私の子」と呼ばれる者たち

“あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてくださいます。” 1-18:15-16

“多くの証人たちの前で私から聞いたことを、ほかの人にも教える力のある信頼できる人たちに委ねなさい。” 2:2

② 恵みによって生きる強さ

“私は、私を強くしてくださる、私たちの主キリスト・イエスに感謝しています。キリストは私を忠実な者と認めて、この務めに任命して下さったからです。” 1:12

“しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。ですから私は、キリストのゆえに、弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいます。というのは、私が弱いときにこそ、私は強いからです。” 2コリント12:9-10

③ 最後に得られるもの（勝利、栄冠、収穫）に目を向けよう

“キリスト・イエスの立派な兵士として、私と苦しみをとみにしてください。兵役についている人はだれも、日常生活のことに煩わされることはありません。ただ、兵を募った人を喜ばせようとしませぬ。また、競技をする人も、規定にしたがって競技をしなければ栄冠を得ることはできません。労苦している農夫こそ、最初に収穫の分け前にあずかるべきです。”

3-

<考えてみましょう>

- ・今年目標（信仰において、家庭において、仕事において、教会において、その他）について、導かれていることを分かち合いましょう。